

令和5年度 学力向上プラン

学校名 中央区立阪本小学校

学校の教育目標

・思いやりのある子 ・よく考える子 ・たくましい子

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

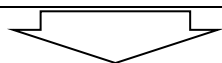
・基礎・基本の定着を実感させるとともに、自ら学んだという達成感を味わわせ、自信をつけさせる。

令和5年度「学習力サポートテスト」や令和4年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	令和5年度「学習力サポートテスト」の結果では、全国平均を4、5、6学年すべてで7ポイント以上上回っている。また、昨年度より10ポイント以上上回っている。話の内容を聞き取ること、漢字の読み書き言葉の学習に課題がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で話し合ったり、グループで話し合った内容をまとめて発表したりする活動の経験が少ない。 ・普段の生活の中で人の話を聞く、聞いて自分の考えをもつことが苦手。 ・普段から文章を書く際に、習った漢字を積極的に使う意識が低い。家庭学習でも漢字練習の時間が少ない。 ・漢字のような日々の繰り返し練習が苦手。 ・文語調の短歌や俳句、慣用句や故事成語に触れる機会が少ない。
算数	令和5年度「学習力サポートテスト」の結果では、区平均、全国平均を4、5、6学年すべてで上回っている。 □を使った式、コンパスや三角定規などを使用する作図に課題がある。計算ミスが多く、思考力を問う問題に課題がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・立式において自分の考えを言葉や図を使って説明する機会が少ない。 ・用具などの操作が苦手である。 ・算数用語の定着が不十分である。 ・問題文をじっくりと読み、解答を導き出すことができない。 ・見直しをしない。
社会	令和5年度「学習力サポートテスト」の結果では知識理解は高い。 しかし、資料から情報を読み取ることが苦手な児童が多い。身近な社会的事象に関わる内容理解が低い。また、記述問題に課題があることから、正しい知識が身につけていないと考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・知識として理解したことを、生活とつなげて考えられていない。 ・学習過程において、資料を収集したり、活用したりする経験が少ない。 ・社会科見学で本来見学すべき施設や設備等が少なくなっている。 ・資料から読み取ったことを表現する活動が少ない。 ・名称を知るだけで深く考える機会が少ない。
理科	令和5年度「学習力サポートテスト」の結果では、全国平均や昨年度平均を上回っている。 植物の育ち方や動物など生き物の様子、天体や自然の事象に関する知識理解が低い。また、電気、もののとけ方、顕微鏡の使い方に課題がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物を育てる環境が学校及び周辺に少なく、生き物に触れる機会が少ない。 ・冷暖房完備のビルで1年中生活しているため、自然事象や自然環境の変化を実感しづらい。 ・電気の単元は、単発の単元なので、復習する

		<p>機会が少なかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋上校庭で屋根があるため、太陽やかげなどに日常的に触れていない。実際の太陽の動き観察して学ぶ機会が少ない。 ・顕微鏡を使用した活動が少ない。
英語	<p>令和5年度「学習力サポートテスト」の結果では、全国平均、区平均を上回っているが、日常生活に関する対話から目的や場面、状況を推測することに課題がある。また、授業の様子から、アルファベットや単語など書くこと、英作文、英文の完成に課題が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話したり聞いたりする学習が中心となり、アルファベットや単語などを書く時間が少ない。 ・大文字や小文字、カンマなど、基本的な文法表現など英文を書く練習量が少ない。
体育・保健体育	<p>令和5年度「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の結果では中央区内で1位という結果が出た。4、5、6年生のシャトルラン測定を合同で行ったことにより、記録が最大5ポイントのびた。しかし長座体前屈は一部の学年で、握力は約半分の学年で全国平均を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールなどを投げる経験やぞうきんを絞る経験などが不足している。 ・雲梯や鉄棒等握力を鍛えることができる活動に取り組む機会が少なかった。 ・一定の負荷の中で運動を継続する経験が不十分である。 ・柔軟体操などを継続的に行っていない。
学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
①各教科	国語	<p>異学年や大人に適切な言葉や言い方で、伝えたいことを伝えたり、聞きたいことをインタビューしたりすることができる。</p> <p>漢字の確実な定着を行う。4、5、6年の学習力サポートテストで全国平均を上回る。さらに、令和6年度も上回れるように指導する。</p>
	算数・数学	<p>複数の方法で答えを導き、図や式を用いて説明できるようにする。</p> <p>算数用語の定期的な振り返りを行い、定着させる。</p> <p>4、5、6年の学習力サポートテストのすべての単元で、全国平均を上回る。</p>
	社会	<p>調べたり、学んだりした内容を自分の身の回りの生活と結びつけて考えることができるようにする。</p> <p>4、5、6年の学習力サポートテストのすべての単元で、全国平均を上回る。</p>
	理科	<p>身の回りの自然や現象に触れ、体験する活動に積極的に取り組めるようにする。</p> <p>4、5、6年の学習力サポートテストのすべての単元で、全国平均を上回る。</p>
	英語	<p>様々な活動を通して英語のアルファベットや単語を、体験的に学んでいけるようにする。</p> <p>4、5、6年の学習力サポートテストのすべての単元で、全国平均を上回る。</p>
	体育・保健体育	<p>ICT機器を活用し、自己の課題を見付け、対話的に解決することができるようにする。</p> <p>体力テストの握力や長座体前屈の結果で全国平均を上回る。</p>
②授業改善		<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を効果的に活用し、児童の興味・関心を高め、個に応じた指導にも重点を置く。 ・「個」→「ペア」→「全体」→「個」の学習サイクルを継続的にを行い、筋道を立てて自分の考えをもつ問題解決型の授業スタイルを確立する。
③家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と学習指導や生活習慣に関する指導の共有を図るために、年3回の児童との面談、年2回の保護者との個人面談を実施する。 ・1人1台タブレット端末を家庭との連携で積極的に活用する。 ・保護者アンケート「保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすく内容も適切

	<p>である」の肯定的回答90%以上を達成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・classroomを活用し、日々の課題などを発信する。
④体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の運動量の確保とマイスクールスポーツを推進し、長期休業中の家庭での取組に向け、課題カードを作成する。 ・体力調査の結果を前年度よりあげるよう、日常および体力向上月間で取り組む。 ・体力向上の意識を児童にもたせ、児童アンケートで「自分の体力づくりに取り組んでいますか」の肯定的回答85%以上を達成する。



【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	新しい言葉や漢字の学習では、ただ覚えるのではなく、意味を自分で調べてから練習し、使い方についても繰り返し書くようにする。
算数・数学	低学年のうちから定規を使った直線の引き方、長さの測り方が身につくよう、ノートの書き方や工作などで意識して指導を行う。
社会	インターネットで検索して調べるだけでなく、実際に自分の目で見て調べる、資料をもとに考えて発見し、課題解決するような学習を多く取り入れる。
理科	屋上校庭の学校園、坂本町公園での植物や生き物の観察は、自分の木や場所を決めて定点観察するなどの機会を増やし、方法も工夫して行っていく。
英語	フォニックスを用い、発音の規則や語順等を体験的に学び、単語の語彙を豊かにする。
体育・保健体育	体育館のボルダリングを休み時間開放して自由に取り組めるようにする。教室に握力計や握力トレーニング機器を設置し自己の目標を決めて取り組めるようにする。
② 授業改善	
取組Ⅰ	課題の設定や解決の方法を児童自らが考え、思考を深める課題解決型の授業スタイルを工夫する。
取組Ⅱ	単元のまとめの学習では、学習内容が日常生活とどのようにつながるかを考えさせる発問をする。
③ 家庭との連携	
取組Ⅰ	年2回の保護者との個人面談を通して、学力調査の結果や学習の方法を説明する。普段から児童にも保護者にも相談しやすい体制を作る。
取組Ⅱ	タブレット端末の活用、学校だより、学校評価アンケート等の送信、家庭学習キャンペーンの年3回実施を通して、家庭での学習の充実を図る。

④体力向上	
取組Ⅰ	体育朝会や授業の中で、運動の質を高めたり、運動量を確保できる場の設定を工夫したりするとともに、ボルダリングや肋木などを活用し、「つかむ」感覚を大切にしたい計画を立てる。
取組Ⅱ	「できる喜び」を多くの児童に実感させるために、体育指導補助員を活用して、個別指導を進める。

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語	・定期的に小テストを実施したことで漢字の定着を図ることができた。	・形を捉えにくい児童や、生活経験が乏しく、部首と漢字の意味が関連付けられない児童がいる。 ・説明文・物語文ともに短時間で内容を読み取ることが不得手。普段から時間を区切って内容を読み取り要約文を書く活動を取り入れる。
	算数・数学	・少人数指導による基礎基本や算数用語の定着を図ることができた。	・用具の操作には課題が残った。算数的な活動など、楽しんで用具を操作したり、算数の用語を使ったりする機会を増やしたい。 ・文章問題で時間内に答えを導くことが不得手。普段から時間を区切って答えを導くための手順を考える、問題解決活動を多く取り入れる。
	社会	・インターネットや資料を活用し、学習問題について調べ、パワーポイントにまとめる力が高まった。	・体験的な活動を取り入れ、地域資源を生かした校外学習を行い、まとめたことを体感できるようにする。 ・毎時間の授業で資料を提示し、考察文を書かせる活動を取り入れる。
	理科	・理科支援員や学習支援補助員を活用したことで、個に応じた指導を進めることができた。	・自然豊かな坂本町公園を有効活用していきたい。 ・理科室での実験において、考察したことを文章に表す活動を毎時間取り入れる。
	英語	・単語やフレーズをかるたや歌で学ぶことで楽しく身につけることができた。	・恥ずかしがることなく、発表できるように楽しい活動を続けていく。 ・ALT や友達との1対1の会話活動や全員の前でのスピーチ活動を単元毎に取り入れて、英語に慣れ親しむ活動をさらに充実させる。
	体育・保健体育	・チームスポーツを多く取り入れたことで、思考力を身につけることが	・各領域の運動の楽しさにより触れられるとともに、お互いをたたえ合うことができ

		できた。	<p>るようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元毎、種目毎に目標となる記録を決め、練習方法を工夫したり友達と教え合ったりしながら記録の向上に取り組めるようにする。
② 授業改善	課題解決学習を取り入れたことで、主体的に考える児童が増えた。 生活経験と学習を結び付けて考えることができる児童が増えた。		<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や特別活動等との関連を強め、日常生活との関わりを感じさせる機会や、自ら解決し、表現するなど、アウトプットの機会を増やしたい。 ・タブレット等 ICT 機器のみ学習だと、後の振り返りや習熟度を深めることが難しい。ノートとの効果的な併用を進めている。
③ 家庭との連携	家庭学習キャンペーンでは、家庭での学習の様子が可視化され、学習に取り組みにくい環境にいる児童に個別で支援することができた。また、タブレット PC で宿題の内容を家庭と共有することで、しっかりと取り組むことができた児童が増えた。		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣が身に付いていない児童もいる。また、学力を向上するためにも、家庭で体験的な活動を増やせるように声かけを行っていきたい。 ・年3回の保護者会、年2回の個人面談にて児童の学習の課題について保護者と共通理解を図り、家庭学習が習慣化できるようにする。
④ 体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・なわとびの学習カードを効果的に活用し、休み時間にも児童自ら取り組む習慣がついたことで体力向上を図ることができた。 ・運動委員会で様々な企画をし、運動週間の定着を図った。 		<ul style="list-style-type: none"> ・体力を向上する機会を計画する。体育朝会では十分な運動量が確保できるような体を動かす活動を行えるようにする。 ・中学校進学を控え、運動する児童とそうでない児童との差が顕著化している。体育の授業や休み時間に運動する時間を確実に確保できるようにする。